

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

〒 110-0016

所在地 東京都台東区台東三丁目2番5号大林ビル2F

評価機関名 有限会社エテルノ

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

福祉サービス種別	認可保育所		
評価対象事業所名称	大田区立みどり保育園		
事業所連絡先	〒	144-0056	
	所在地	東京都大田区西六郷3-30-20-101	
	TEL	03-3738-5541	
契約日	2025年	4月	1日
利用者調査票配付日(実施日)	2025年	6月	23日
利用者調査結果報告日	2025年	8月	22日
自己評価の調査票配付日	2025年	6月	23日
自己評価結果報告日	2025年	8月	22日
訪問調査日	2025年	8月	27日
評価合議日	2025年	9月	10日
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	評価実施にあたり、評点基準や根拠書類の準備について、わかりやすく解説した独自マニュアルを用いて説明を行っている。分析シートは記入の手引きを用意し、効果的に情報が整理できるよう工夫を行っている。確認根拠資料は、訪問調査の概ね4週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ってから訪問調査を実施している。訪問調査は事業所の課題や良い点を中心に把握することを重点に置いて実施している。合議は、訪問調査終了後に速やかに実施している。		

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>（理念）          こども一人一人の心身の健やかな成長を支え、生きる力を育てる。          一人一人のこどもが、十分に愛される中で自分の存在を大切に          保育士や友だちと安心して過ごせる保育園を目指します。</p> <p>（方針）          1) こどもたちの生活と遊びを通して、主体的に行動できる力を培う環境づくりに努めます。          2) こどもたちにとって、安心して生活できる心地よい場所となるように環境を工夫します。          3) 一人一人の状態を把握し、安心と信頼が持てるように丁寧なかかわりをしていきます。          4) 保護者との信頼関係を大切に、保護者を理解するように努め良き親支援を行います。          5) 保育士は専門家としての自覚を持ち、常に保育技術や知識の向上に努めます。</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども一人一人の人権についての理解を深め尊重した保育を行っていく。</li> <li>・自分の役割や業務内容を理解し、職務を確実に遂行していく。</li> <li>・保護者の思いや状況を理解し、丁寧かつ的確な対応を行っていく。</li> <li>・職員同士認め合い、互いの強みを活かしながらチーム力を高めていく。</li> <li>・職員一人一人が専門性を高め、保育の質の向上に努める。</li> </ul> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から「こどもにとってどうなのか」という視点をもった保育を遂行していく。</li> <li>・職員としての自覚と意識を持って行動する。</li> <li>・保護者の気持ちに寄り添い、傾聴の姿勢をもちながら保護者の立場に立った保育サービスを提供していく。</li> <li>・職員同士、積極的にコミュニケーションを図りながら、良好な関係を築きチーム力の向上に繋げていく。</li> <li>・研修や職員間の対話などを通して、日頃の保育を振り返り互いに学びを深めていく。</li> </ul>

調査対象	保育園に通っている園児80世帯89人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。		
調査方法	保護者にはウェブ調査回答用URLおよびQRコード、IDを配付して、回答をウェブ上で収集した。外国語世帯のみ調査票の直接郵送にて回収した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。		
利用者総数	89		
利用者家族総数(世帯)	80		
共通評価項目による調査対象者数	80		
共通評価項目による調査の有効回答者数	57		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	71.3		

**利用者調査全体のコメント**

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」61.4%、「満足」35.1%の計96.5%であった。自由意見では、「季節ごとのイベントや制作も楽しみなようです。」「子どもや親の気持ちに寄り添ってくださっていると思います。全職員が温かく安心して預けられます。」「アットホームな感じが好きです。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「保育時間の変更」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「トラブル対応」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの17問中16問が80%以上の支持を得ている。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	57	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「最近言葉も沢山覚えて帰ってくるので嬉しいです」「数ヶ月での成長が著しいです」という声が寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	55	1	0	1
「はい」の回答は96.5%、「どちらともいえない」の回答は1.8%、「無回答・非該当」の回答は1.8%であった。 自由意見では、「園での活動をいつも楽しそうにしています」という声が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	52	3	1	1
「はい」の回答は91.2%、「どちらともいえない」の回答は5.3%、「いいえ」の回答は1.8%、「無回答・非該当」の回答は1.8%であった。 自由意見では、「野菜が食べられるようになってきました。家でも同じものが食べたいと言われます」「食事はバランスよく考えられていると思います」という声が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	51	4	1	1
「はい」の回答は89.5%、「どちらともいえない」の回答は7.0%、「いいえ」の回答は1.8%、「無回答・非該当」の回答は1.8%であった。 自由意見では、「忙しい中イベントや散歩を定期的に参加していただき、親子で楽しんでいます」という声が寄せられている一方、「園庭以外での外遊びがもっとあると良いと思います」という意見が寄せられていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	50	6	0	1
「はい」の回答は87.7%、「どちらともいえない」の回答は10.5%、「無回答・非該当」の回答は1.8%であった。 自由意見では、「しよっちゅうお迎えが遅れてしまい電話しているのですが、嫌な顔せずお疲れさまですと声をかけてくださり救われています」「親身にとっても柔軟に対応いただいて助かっています」という声が寄せられていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	54	3	0	0
「はい」の回答は94.7%、「どちらともいえない」の回答は5.3%であった。 自由意見では、「防災用の服を用意しており、他の対策も取られていると思います」という声が寄せられている一方、「上の階の建物が古いと思うのでそこが少し心配です」という意見が寄せられていた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	47	8	1	1
「はい」の回答は82.5%、「どちらともいえない」の回答は14.0%、「いいえ」の回答は1.8%、「無回答・非該当」の回答は1.8%であった。 自由意見では、「年間行事予定を早期に配布していただき予定が立てやすいです」という声が寄せられている一方、「保護者会は全て夫婦ともに参加できると嬉しいです」という意見が寄せられていた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	55	2	0	0
「はい」の回答は96.5%、「どちらともいえない」の回答は3.5%であった。 自由意見では、「信頼のおける先生が多いです」「何かあればその都度話し合い、連携が取れていると思います」「何度も助けられています」という声が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	55	2	0	0
「はい」の回答は96.5%、「どちらともいえない」の回答は3.5%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	55	1	1	0
「はい」の回答は96.5%、「どちらともいえない」の回答は1.8%、「いいえ」の回答は1.8%であった。 自由意見では、「いつも親切で感謝しています」という声が寄せられている一方、「たまに家で子どもが真似する先生の言葉遣いが気になることがあります。基本的には温かく正しい言葉を使ってくださっているとは思いますが」という意見が寄せられていた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	57	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「怪我をした際に連絡いただき、病院に連れて行って下さいました」「怪我をしたときに細かく伝えてくれて親としては安心できます」という声が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	50	7	0	0
「はい」の回答は87.7%、「どちらともいえない」の回答は12.3%であった。 自由意見では、「よく対応していただいています」という声が寄せられていた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	53	3	1	0
「はい」の回答は93.0%、「どちらともいえない」の回答は5.3%、「いいえ」の回答は1.8%であった。 自由意見では、「こちらが子どもの様子が最近変だなと感じていた些細なことを先生も同じように感じてくれていたので私よりも子どもの様子を敏感に察知し対応してくださっていたと感じました」という声が寄せられていた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	53	4	0	0
「はい」の回答は93.0%、「どちらともいえない」の回答は7.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	54	3	0	0
「はい」の回答は94.7%、「どちらともいえない」の回答は5.3%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	55	1	1	0
「はい」の回答は96.5%、「どちらともいえない」の回答は1.8%、「いいえ」の回答は1.8%であった。 自由意見では、「丁寧な対応をしていただいています」という声が寄せられている一方、「以前質問したことがあったが、完全な回答をもらえませんでした」という意見が寄せられていた。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	44	11	1	1
「はい」の回答は77.2%、「どちらともいえない」の回答は19.3%、「いいえ」の回答は1.8%、「無回答・非該当」の回答は1.8%であった。 自由意見では、「保護者会で説明してくれた気がします」という声が寄せられている一方、「区役所に相談したことはあるがどこに相談したらいいかわからない人が多いと思う。今一度保育園からお知らせしたほうが良いと思いました」という意見が寄せられていた。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 <b>7/7</b>
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float: right;">○非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく <span style="float: right;">○非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	会議や保護者会などで理念や方針を説明し、保護者や職員の理解に繋げている 年度当初の職員会議では、理念や方針、園が目指していること、「職員の心得」職員の職務などについて全職員で読み合わせを行い確認している。また、「心を育てる大田の保育」は各自で読み理解を深めている。各クラスの年間指導計画作成時に、保育をする上で大切にしたいことや育てたい力を確認している。入園オリエンテーションでは、保護者に向けて重要事項説明書を用いて詳しく説明している。保護者会では園目標、クラス目標等、目標に向けた一年の保育や保育のねらいなどをわかりやすく説明している。	
	経営層としての責任や役割の表明が年度当初に行われ、リーダーシップを発揮している 年度当初に職員へ職務分担表、業務内容を配布し、リーダー会や職員会議で経営層の役割や各職員の職務などを説明し確認している。経営層は職員が自発的に行動できるよう働きかけ、目的達成へと導けるように、クラス打ち合わせやリーダー会、プロジェクトチーム、フリー会などを実施し、内容の把握、進捗状況を確認しながら、助言し園運営を進めている。前年度各プロジェクトチームから出された反省や課題については、今年度のプロジェクトチームを立ち上げ、一人一人の役割を明確にしている。	
	会議体系が整えられ、会議内容は職員間で共有し、保護者へも的確に伝えられている 重要な案件の検討事項は、園長、主任で検討・確認後、リーダー会で話し合い方向性を打ち出し職員に周知している。リーダー会で情報を整理・集約し、職員会議で全体合意を得て決定するという一連の流れが定着しており、直近では送迎時の受け渡し場所・時間帯を変更するにあたり、職員と十分協議し、職員の勤務時間変更を行っている。保護者にはわかりやすく掲示して周知している。急を要する案件についてもリーダー会で迅速に合意形成を行い、その後の昼礼や職員会議で全職員へ内容と経緯を報告し、周知を図っている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>利用者アンケートや職員面談などで意向などを把握し、検討課題を設定し対応している</p> <p>利用者の意向を確認するために、保護者会や保護者参加の行事の後にアンケートを実施したり、口頭で情報を収集したりしてニーズを把握している。寄せられた意見にもとづき、具体的なサービス改善に反映されている。職員の意向については、日々の業務を通じて出される意見や提案がプロジェクトチーム(PT)などで検討され、保育環境や保育実践、職場環境の整備に繋がっている。個別で行っている職員面談では、業務や研修に関する本人の課題や意向を確認している。</p> <p>地域の福祉ニーズを把握するため、近隣の関係機関と連携し情報収集に努めている</p> <p>地域の福祉の現状について情報を収集するために、地区別園長会議や地域保育施設会議に参加し、情報交換を行うなどしてニーズを把握している。直近では、地域支援事業の年間計画を立てていたが、参加者から園庭遊びをしたいという声から、計画の見直しを図っている。各ニーズや現状を踏まえ、職員の専門性の維持向上、安全・安心な環境の整備、地域の保育所等の連携、在宅子育て家庭への支援等の課題を抽出している。</p> <p>区の方針を踏まえて園で計画を策定し、全職員で計画を推進していく体制を整えている</p> <p>区の理念や計画等を踏まえ、園の現状に沿った「みどり保育園中期計画」を策定し、中期計画を踏まえて具体的な単年度計画を策定している。策定した計画を推進するためプロジェクト(PT)と係を設け、今年は5つ(園内研修、子育て支援、防災、危機管理、絵本)のPTを立ち上げそれぞれが役割分担を担い、計画・実施・振り返りを行い、取組と実施状況、反省と残された課題を検討している。職員一人一人が園全体の課題を自分ごととして考えられるように計画を推進していく体制を整えている。</p>		

3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

### カテゴリー3の講評

#### マニュアルに職員が守るべき法、規範、倫理などについて明記し、周知徹底に努めている

守るべき法や規範、倫理について、全職員への周知と理解を深める取組として、「全国保育士会倫理綱領」「こころを育てる大田の保育」、職員の服務について読み合わせをしている。また、「保育園運営の手引き」「大田区安全保育マニュアル」等を配布・確認し、プライバシーポリシーへの署名を通じて全職員に法・規範・倫理を周知している。人権を大切にしたい保育を実践するために人権セルフチェックを行い、園内研修では自身の言動について振り返り、職員間で確認し合っている。

#### 苦情解決や虐待に対しては、きめ細かい対応や細心の注意を払うように努めている

苦情対応の仕組みについては、苦情解決責任者や、受け付け担当者、オンブズマン制度などを重要事項説明書に掲載し、入園前のオリエンテーションで説明している。苦情や意見を受け付けた際は、園長に報告し、経緯・事実関係の確認を行い迅速に対応し解決に向け取り組んでいる。虐待防止に向けては、こころを育てる大田の保育の「職員の心得」を確認するとともに、入園前オリエンテーションで通告の義務について保護者に説明している。保育園で気になる情報は子ども家庭支援センターに伝え、日頃から連絡を密にとっている。

#### 保育の専門性を活かして地域交流及び地域支援の充実に取り組んでいる

地域に向けて「ぼかぼかたいむ」のお誘いや私立保育園との交流等、保育園からの情報発信などは、年間を通して計画し実施している。また、育児応援券の受け入れや見学会、園庭開放などで地域の福祉ニーズに応えている。実習生・ボランティア受け入れ時は「実習生のみなさんへ」「ボランティアのみなさんへ」の手引きにより、基本姿勢や留意事項、プライバシー保護を周知・同意取得している。地域保育施設会議や地区別園長会等で、近隣の保育施設や児童館、小学校と情報交換をしている。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>5/5</b>
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>4/4</b>
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>子どもの命を守ることを最大限配慮し、安全確保と徹底を進めている</p> <p>子どもの命に関わることを第一優先の考えのもと、それを阻害する恐れのあるリスクについて洗い出し、対策を講じマニュアルに定めている。特に食事時、睡眠時、プール・水遊び時の事故を最上位に位置づけ、保育園防災の手引き、事故防止ガイドブック、大田区安全保育マニュアルなどの各種マニュアルを整備し、年度当初の読み合わせや月次点検、各種訓練・演習を通じて職員全員が対応手順を習得している。また、事業継続計画(BCP)を策定し、平常時から非常時までの行動フローを明示し、保護者、非常勤職員にも周知・参加を促している。</p> <p>体系的なリスク管理と迅速な対応により、安全で安心な園環境が確保されている</p> <p>大規模災害時を想定した福祉避難所開設に向けての準備が整えられ、職員はマニュアルに沿って開設訓練を行っている。また、危機管理プロジェクトを中心に、保育園内外の危険個所を確認し、全職員で事故に対する危機管理意識を高めている。散歩先など、園外での災害も想定し、出発前から帰園までの人数確認、現地での危険物確認、不審者確認等、安全確認を行っている。子どもの見失い、置き去り防止策として、人数を把握し報告することを徹底している。ヒヤリハット報告は全職員で共有し、事案によっては職員会議で取り上げ再発防止に取り組んでいる。</p> <p>園で取り扱う情報は、規程・ルールを定め、規則に沿って管理している</p> <p>園で取り扱う情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、年度当初の職員会議で説明し確認している。児童票、児童調査表、健康記録等の個人情報は施錠できる書庫に保管している。事務所から各保育室に持ち出す際は管理簿に記載し管理している。また、カメラや園用スマートフォンなども同様に管理簿に記載し管理徹底している。職員、保護者、実習生に至るまで、園に関わる全ての人を対象に「プライバシーポリシー」を用いて利用目的を明示し、署名を得ることで、個人情報保護の重要性についての理解と遵守を徹底している。</p>		

5 職員と組織の能力向上			12/12
サブカテゴリ-1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当

カテゴリ5の講評

**組織の能力向上を図るためのシステムを整え、適材適所の配置が進められている**

当園は区と一体となった採用・配置システムのもとで安定した人員確保を実施している。「大田区保育園人材育成指針」に基づき人材育成基本方針及び人事評価制度が定められ、在職年数や役職ごとに保育士に求められる資質等が明記されており、職員に書面で周知している。人員配置については、個別職員面談を行い、保育に対する思いや希望を確認し参考にしていく。その上で経験年数や実績、健康面や組織のバランスを考慮し配置している。異動は自己申告書に本人の希望を記載し、その上で区の人事が決定している。

**職員の意向把握を行い、研修計画を作成し能力の向上に取り組んでいる**

大田区人材育成指針により人材育成評価制度が定められており、園長と職員との個別面談を年2回実施し、キャリアデザインシートを活用しながら職員自身の将来像と必要な経験・研修を共有している。職員が心身ともに健康な状態で意欲的に働けるように、園内研修時の対話の時間等を含め、日頃よりコミュニケーションをとることを意識している。研修等は職員の希望と園長の希望とをすり合わせ、一つでも多くの研修に参加し自己研鑽できるようにしている。また、研修に参加した職員は職員会議で還元し、互いの保育の質の向上に繋げている。

**組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークで効果的に取り組んでいる**

組織の目標達成や課題解決に向けて、クラス保育、行事、各プロジェクト、リーダー会等、仕事内容や役割分担を含め課題や目標に合わせた打ち合わせを行い、業務を進めている。職員会議では、15分間程度のアイスブレイクの手法を取り入れ、会議に参加する職員の緊張を和らげ、意見交換がしやすい環境を構築し、チームワークの促進にも繋げている。園内研修でも経験年数を問わず、くじ引きなどでグループを決め、少人数で保育を語る時間を設けるなど、職員間の良好な人間関係の構築に取り組んでいる。

カテゴリ7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<b>評価項目1</b> 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>運営及び保育方針に、「子どもの生活と遊びを通して主体的に行動できる力を培う環境づくりに努める」とあり、子ども一人一人を尊重し、主体性や自己肯定感が育まれる保育を目指すことを重要課題として捉え、昨年度の重点目標に、「子ども主体の保育環境づくり」を掲げた。昨年度の重点施策として、1歳児クラスの公開保育に取り組んだ。</p> <p>その結果、重点目標に掲げたことが60%達成した。</p> <p>60%の達成となった原因として考えられることは、目標設定や取組などのプロセスで改善すべき点として、子どもの「こうしたい」を、すぐにできるようにする「即応性」の重要性について認識し、すぐ保育に取り入れていくことができた一方で、主体的な保育環境について園全体に浸透させるまでには至らなかったことを明らかにしている。</p> <p>こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、子どもにとっての保育環境を考えた際に、保育士の関わりが重要と捉え、子どもの人権を尊重した保育に拡げた取組に発展させている。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<b>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</b> 子ども一人一人を尊重し、主体性や自己肯定感が育まれる保育を目指すことを重要課題として「子ども主体の保育環境づくり」を目標に1歳児クラスの公開保育に取り組んだ結果子どもの「こうしたい」を、すぐにできるようにする「即応性」の重要性について認識し、すぐ保育に取り入れていくことができたことは成果といえる。一方、60%の達成に留まった理由として主体的な保育環境について園全体に浸透させるまでには至らなかったことを明らかにしており、今後はさらに主体的な保育環境について園全体に浸透させる仕組みや取組の構築に期待したい。今年度は保育士の関わりが重要と捉え、子どもの人権を尊重した保育に拡げた取組に発展させているため、PDCAサイクルの取組として組織的に取り組む際には、重点目標の設定の表記の工夫に検討の余地がある。PDCAの有効性を高めるために、定量化した指標を明示し、より高い成果の獲得を目指すことに期待したい。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

「子どもにとって」という視点から保育や保護者対応がなされているかを重要課題として捉え、昨年度の重点目標に、日頃の保育、子どもに対する言葉がけや立ち振る舞い、保護者対応を振り返り、子どもの最善の利益が保障されているか考えていくことを掲げた。昨年度の重点施策として、年度当初に「全国保育士会倫理綱領」を読み合わせし、「子どもにとってどうなのか」という視点に立って保育していくことを確認すること。園内研修において、具体的なテーマで対話し、自己評価に繋げることに取り組んだ。その結果、重点目標に掲げたことが60%達成した。その原因として考えられることは、子どもにとってどうなのかという視点を意識して、保育や保護者対応をする職員は増えているが、理解はしていても行動に結びつかない職員もいる。そのために、適切な対応と不適切な対応を明確に伝えていくことを明らかにしている。こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、子どもの人権を尊重した保育を行うために「こころを育てる大田の保育～保育内容の自己評価～」を活用し、職員同士が対話し、互いの保育や保護者対応に扱げた取組に発展させている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

日頃の保育、子どもに対する言葉がけや立ち振る舞い、保護者対応を振り返り、子どもの最善の利益が保障されているか考えていくことを目標に掲げ、年度当初に「全国保育士会倫理綱領」を読み合わせし、「子どもにとってどうなのか」という視点に立って保育していくことを確認することや園内研修において、具体的なテーマで対話し、自己評価に繋げることに取り組んだことは「子どもにとって」という視点をもつためにも有効な取組として評価したい。一方で60%の達成との見解にいたる根拠については、より明確になると次の課題がみえやすくなるのではないだろうか。今後の計画策定にあたっては、3～5年後のなりたいたい・ありたい姿や状態等の指標の設定、それを実現するための年度ごとに取り組むことなどの明確化を図り、具体的な目標を職員間で共有しながら、PDCAの有効性をより高めて進めることが期待される。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>希望者が入手できる、区のホームページやしおりに園の情報を掲載している</p> <p>利用希望者などが入手しやすい媒体で園の情報を入手できるように、大田区のホームページでは入園等の手続き、空き情報、緊急一時保育、保育園紹介などの情報を掲載している。施設見学者には、園の概要が記載された「保育園のしおり」を配布している。また、園舎前には、子育て支援イベントのお知らせを掲示している。外国籍の方向けに英語、中国語で表記されている重要事項説明書を用意し、必要に応じて使用している。それ以外の言語での対応が必要な際は、保育サービス課に問い合わせで用意している。</p> <p>地域子育て支援イベントや見学会を開催し、園の特徴を丁寧に伝えている</p> <p>地域子育て支援「ほかほかたいむ」のお知らせチラシ・ポスターを地域庁舎、図書館、近隣の病院などに配布したり掲示したりしている。地域の子育て家庭に向けた「ほかほかたいむ」では、園の普段の様子が体験できるとともに、保護者の話をききながら関係を築いている。また、家に帰ってから親子で楽しめるように手作り制作キットを用意し好評を得ている。見学会では、保育園の保育理念、保育方針、園目標などのほかに、各クラスの保育の特徴や子どもたちが好きな遊び、飼育物、栽培物などについて具体的に環境を見てもらいながら紹介している。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p><b>重要事項説明書に基づき基本的ルールなど、保護者の状況に応じて説明をしている</b></p> <p>入園内定の利用者には、事前に調査票を渡して記入を依頼し新入園児面接とオリエンテーションを行っている。オリエンテーションは、パワーポイントを使い重要事項説明書に基づき、園と家庭の役割、園の概要、運営及び保育方針、基本的ルールなど分かりやすく説明し同意のサインを得て児童票に綴じている。参加できない場合は別日を調整し、また日本語の理解が難しい外国籍の保護者には、通訳システムや翻訳機を使用したりして説明をしている。その際、保護者の意向を丁寧に聞き取り、児童調査票に記入して職員間で共有している。</p> <p><b>転園や卒園後も、これまでの支援の継続が切れ目なくできるように情報共有している</b></p> <p>同じ区立保育園内で転園する場合は、事前に「転園に関する区立保育園間個人情報の受け渡し承諾」書の同意を得て、転園先に児童票や健康カードを送付し、円滑な園児情報の引継ぎを図っている。就学児は、就学先の小学校に保育所児童保育要録を作成して送付することを5歳児最初の保護者会で伝え、必要に応じて保幼小連携や小学校との交流を通して情報を把握して連携し支援の継続に努めている。転園や退園児に「元気でねカード」を渡して、子どもや保護者に合わせてメッセージを送り、就学児には「就学祝い会」を開いてお祝いをしている。</p> <p><b>利用開始直後に伴う子どもや保護者の不安が軽減できるように慣れ保育を行っている</b></p> <p>子どもの様子や保護者の就労状況を考慮して、1週間を目安に慣れ保育を実施している。新入園児面接は、慣れ保育表で年齢ごとの慣れ保育時間の目安を伝え、その際、保護者の就労状況や子どもの姿によって柔軟に対応することも伝えている。入園初日は、保護者と子どもと一緒に遊んで過ごし安心感を得られるようにしている。入園後も家での入眠の仕方や生活リズムなどを聞き、好きな遊びで遊べるように一人一人の子どもに応じた働きかけをクラスで話し合い共有している。子どもの様子や保護者の様子は職員会議で報告し職員間で共通理解を図っている。</p>		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 13/13
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>子どもや保護者に関する情報や要望は、区立園統一の様式に記録し把握している</p> <p>子どもの情報は、入園時の調査票や児童票で把握し、それを基に面接して聞き取り組織として統一した様式に記載している。入園後は、子どもの成長発達の様子や内面の育ちなどを児童票に記録し、日々の活動の様子は保育日誌に記録している。子どもの個別の発達課題は児童票で把握し、成長過程を記録している。年度当初には個人面談を行い、保護者の子どもの成長をしてほしい姿や要望を聞き、面談記録に記入して職員会に報告し職員間で共有している。年度末に再度保護者と面談して、1年間の振り返りを行い子どもの様子や成長を伝え合い共有している。</p> <p>指導計画は全体的な計画を基に、年間指導計画・月案・個人月案・週案を作成している</p> <p>指導計画は、全体的な計画を基にクラスの特徴を踏まえ、育てたい力、保育で大切にしたいことなど担任同士で共通理解し、年間指導計画・月案・個人月案・週案を作成している。2～5歳児クラスは、年間活動計画も立て月案、週案に反映させ、期ごとや年度末に1年の振り返りを行っている。全体的な計画は、年度の初めに月案、週案、日誌をもとに振り返りをして子どもの様子を考慮して見直しを行っている。子どもの発達状況や保護者の意向など状況の変化時には、計画を見直し原紙に修正箇所を書き職員会議で共有し、次回の指導計画に反映させている。</p> <p>保護者にパワーポイントを使用して指導計画を保護者にわかりやすく説明をしている</p> <p>年度の初めの保護者会で、パワーポイントを用いて1年間の保育目標や計画、見直しを子どもの様子を交えて分かりやすく説明をしている。子ども一人一人に関する情報は、調査票、児童票、遅早連絡表に記入し、児童票には1・2歳児は月齢ごとに、3～5歳児は期ごとに振り返り今後の保育に活かしている。「個別支援計画」は、年度の初めに保護者と面談を行い、支援内容を共有し、期ごとに面談をして子どもの成長を共有し面談後にサインを貰っている。個別配慮が必要な子どもには、3～5歳クラスでも連絡帳を使用して家庭と連絡を密に取っている。</p>		

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得ようとしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>入園時にプライバシーポリシーの説明し、使用目的を明確にして保護者の承諾を得ている</p> <p>入園時のオリエンテーションで「大田区立みどり保育園」重要事項説明書でプライバシーポリシーの説明をしている。個人情報保護法について、定義、収集、管理について説明し記載している。保育園で取り扱う個人情報について、児童調査票、調査表、園だより・クラスだより、連絡帳、健康カード、写真・ビデオ、保育業務支援システムなどの使用目的を説明し「個人情報の利用目的について」と「転園に関する区立保育園間個人情報の受け渡しの承諾」について承諾の署名を得ている。個人情報に関する書類は、使用簿管理を行い使用と返却を徹底している。</p> <p>「こころを育てる大田の保育」を学び、子どもの人権・羞恥心に配慮して取り組んでいる</p> <p>年度当初に「こころを育てる大田の保育」を確認し、人権セルフチェックや園内研修PTで、子どもの人権の尊重の理解や適切な保育の実現に向けて取り組んでいる。子どもの着替えや身体測定、プールの支度など、カーテンやラップタオルを使用して周りから見えないようにしている。着脱は、全裸にならないように日々の着替えの場面で声かけをし、援助の手順も統一して働きかけている。おむつ交換の時は、他から見えないよう衝立を使用し1歳児から配慮している。5歳児クラスは、男女に分かれて着替えをし、その際には衝立の利用を身に付けて行っている。</p> <p>虐待や育児困難家庭への支援に向けて研修会に参加し職員会議で報告し理解を深めている</p> <p>入園時の面談や、日々の保育の中で得られた家庭の食事の習慣や、衣類の調節などを配慮して受け入れ、生活リズムの大切さなど伝え必要な対応をしている。子どもの言動から必要なことを家庭に伺い、園が安心の場になるように保育に反映させている。虐待や育児困難家庭への支援にむけて研修会に参加して学び、職員会議で報告して全職員で周知して共通理解した上で園のできる範囲で支援をしている。虐待ケースに気づいた時には、園長に迅速に報告や相談し保護者と個人面談を行っている。園長は事実を記録し状況に応じて関係機関に繋げている。</p>			

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>適切な行動ができるよう職員は各種マニュアルを理解し、遵守しながら保育を行っている</p> <p>園では、大田区共通マニュアルを含め、保育、職員、災害、安全管理、保護者などに分けて「みどり保育園マニュアル」を作成し、職員一人一人に配布して活用している。延長保育時の対応手順などは保育中に使用するファイルに載せており、すぐに職員が確認できるように準備している。システム入力の事務手順は職員がいつでも確認できるように事務所に設置するなど、作業する際にすぐに活用できるようにマニュアルの設置場所も工夫している。</p> <p>マニュアルは全職員がいつでも見られるように共有し、見直しが行われている</p> <p>保育の中でも着脱、食事、排泄などの細かい援助の仕方をマニュアル化し共通理解して実践している。年度当初に全職員で手引き書を読み合わせすることで再確認し標準化を意識することができている。変更事項があった時には速やかに職員に周知徹底できるように昼礼や職員会議で報告し、変更の都度もれなく周知徹底を図っている。1年ごとに見直しが必要なものは年度末に検討し変更を行っている。年度途中でも更新や見直しの必要があるものは月1回定例で行うリーダー会で話し合い見直しの機会を持っている。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サブカテゴリ4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している
評価項目1の講評	
<p>子どもの発達の過程や生活環境など全体的な姿を把握して保育をしている</p> <p>入園面接や個人面談、送迎時に、子どもの発達の様子や家庭状況、情緒面など把握して、何がその子にとって必要なかをクラスで話し合い対応している。各クラスでは、子どもが主体的に遊べるように、好きな遊びや興味を持った出来事を常に把握して、必要な遊具や玩具、道具、絵本など子どもの手の届く所に配置して、自ら選んで遊べるように環境づくりを意識して行っている。各クラスで子どもの姿や保護者の思いを情報共有し合い、職員会議に報告して職員間で周知し、子ども一人一人に合わせた保育を提供できるように努めている。</p> <p>子どもの特性に配慮して一日の流れを視覚化し、友だちとの関わりの機会を作っている</p> <p>配慮が必要な子どもの保育は、その子どもの特性を把握して他児との関わりを持てるようにしている。個別の年間指導計画を作成し期ごとに振り返り成長の姿を確認し発達に応じた保育の見直しをしている。また3歳児以上にも連絡帳を使用して家庭とのやり取りをして記録している。切り替えの難しい子どもにはホワイトボードに一日の流れを絵や写真、時間(時計)で知らせ、友だちと活動できる時間を徐々に増やし共に成長できるように働きかけている。時には小人数で過ごして心が落ち着く場づくりをして全職員が子どもに合わせた保育を心がけ援助している。</p> <p>子ども同士が年齢や文化の違いを認め合い、互いに尊重する心が育つように援助している</p> <p>年間指導計画を作成して異年齢交流を行い、3～5歳児は日常の遊びの中で、5歳児が3歳児に遊びを教えてもらってホールで遊ぶ中で、5歳児は3・4歳児の見本になると力を発揮し、その姿に年下の子どもが憧れの気持ちを抱いて互いに尊重の心が育つように働きかけている。園では外国籍の子どもには、運動会の国旗づくりを通して外国の文化や食生活に興味や関心を持てるようしている。また、配慮が必要な子どもには例えば手話でのコミュニケーションや手話ソングを歌うなど互いに気持ちを伝え合い交流する機会を作りともに成長できるよう援助している。</p>	

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登降園時には保護者と連絡帳や口頭で子どもの様子を伝え合い共有している</p> <p>登園時には連絡帳や健康チェックカードで確認し、顔色や体調など健康観察をし、保護者と口頭でも子どもの様子を聞き把握している。休み明けは、特に子どもの家庭での様子を丁寧に聞き、保護者の申し出は遅早連絡票に記入して職員間で共有している。気になる時には、すぐ見て確認し必要な情報を事務所に伝達し昼礼ノートにも記入して職員で共有をしている。降園時には、園での子どもの姿を1・2歳児は連絡ノートに記入し、3～5歳児はその日の子どものエピソードを保護者に伝え、内容により保護者に電話で伝えるなど配慮している。</p> <p>子どもの発達状況に応じた基本的な生活習慣が身につくように保護者と連携して行っている</p> <p>春の保護者会で、各年齢の発達の姿を資料やパワーポイントを使って説明をし、基本的な生活習慣の大切さを知らせ働きかけている。一人一人の子どもの発達状況や情緒を考慮して、保護者に園での対応の仕方を丁寧に伝え同じ対応をして、子どもが戸惑わないように園と家庭で連携して基本的な生活習慣が身につくように進めている。そして、できたことを褒めて認め、うれしい気持ちや成功体験を積み重ねていけるようにしている。園では、一日を24時間と捉え家庭と園で協力をして、適切な生活リズムを作れるように連絡を取り合い一緒に進めるようにしている。</p> <p>子ども一人一人の体調を把握し、状況に応じて休息の長さや時間を配慮し対応している</p> <p>休息は、連絡帳や健康チェックカードから一人一人の家庭の睡眠リズムを把握している。また、その日の子どもの体調や疲れ具合など様子を見て休息の時間帯や長さを配慮して行っている。3～5歳児は、年度当初の幼児打ち合わせ会議で午睡室(ホール)に入る時間を確認し「幼児確認事項」に記入している。朝早く起床した子どもには、早めの午睡を促すなど職員間で確認し個別に配慮している。5歳児は、12月の保護者会で12月下旬から徐々に午睡時間を短くして1月から午睡がなくなる事を伝え、就学に向けた生活リズム作りを保護者と共に進めている。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもの興味に合わせ玩具を用意し自主的に遊びを楽しめる環境づくりに取り組んでいる</p> <p>子ども主体の保育環境づくりに取り組み、子どもの「こうしたい」思いを受け止め、好きな玩具で遊べる環境づくりをしている。3～5歳児クラスは構成遊びができるように机上遊びや積み木、パズル、ゲームなどコーナーに分けて広い空間で遊びこめる環境を整えている。5歳児クラスは、ホールと隣接の環境を活かして積み木を使用して家や町など友だちとイメージを共有して大型作品を作り楽しんでいる。1・2歳児は、子どもの思いや生活リズムに合わせた保育に心がけ、職員が連携して柔軟に対応し様々なものに関心を持てるように配慮している。</p> <p>子どもが様々な表現を楽しみ、心地よさを得られるようにしている</p> <p>1・2歳児クラスは、保育士と一緒に声を合わせて歌ったり踊ったりして保育士と触れ合って楽しみ、子どもが安心して思いを表現できるようにしている。3～5歳児クラスでは、季節の歌を計画的に取り入れ日常的にリズム遊びやリトミックで音楽に合わせて身体を動かして表現を楽しんでいる。自由に造形遊びができるように保育室に粘土・クレヨン、様々な素材など自由に使えるように常設しており、翌日にも引き続き継続できるようにして飾っている。子どもたちが自己表現する楽しさを経験し、友だちと楽しさを共有して心地よさを得られるようにしている。</p> <p>戸外活動を通して、季節の変化を楽しめるように様々な機会をつくっている</p> <p>近隣の公園や土手に出かけ、自然に触れながら季節の移りわりを感じることができるようにしている。近隣の公園では春に桜が咲き、寺院に笹、土手では小さな草花が咲き、草に触れた手ざわり、風の音、土の匂いなど五感を使って自然の変化を感じ、興味を広げ、探求心や好奇心を育てている。1歳児園庭があり、安全に探索や歩行ができるスペースが確保され、草花、虫、水など自然に触れその変化を楽しんでいる。4・5歳児クラスは、園外保育でバスに乗って水族館に出かけ、生き物への興味や関心を深め、館内で騒がないなど社会的ルールを学んでいる。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもたちが行事に興味や関心を持てるように、地域の行事など考慮して取り組んでいる</p> <p>節分やひな祭りなどの伝承行事を大切に、行事に向けて年齢に応じた制作をして室内や玄関、ホールに飾り、子どもが行事に興味を持ち楽しめるようにしている。当日は、絵本や紙芝居を使って行事の由来を伝え、また、行事内容に合わせた食事が工夫して提供され行事を感じられるようにしている。園では、地域の祭りを経験した後に、まつりの再現遊びを楽しめるように時期を配慮して行事の計画を立てている。みどりまつりでは、5歳児クラスが、中心になって下のクラスの子を招いてお店屋さんごっこや、お神輿を担いで練り歩き楽しんでいる。</p> <p>友だちと協力して行事に取り組み、やり遂げた喜びや達成感を得られるようにしている</p> <p>運動会は、熱中症予防のために小学校の体育館を借りて、3～5歳児別に開催している。みどりまつりのお店屋さんごっこや運動会などの行事の取り組みでは、昨年の取り組みなどを思い出しながら、お互いのイメージを言葉にして話し合い、みんなで考える機会を持って進めている。5歳児は運動会でソーラン節を披露し、「ソーラン節では、目線を意識し、大きな動きも良く揃って感動しました」などの保護者からの激励の声を子どもたちに伝え、友だちと一緒に協力してやり遂げた喜びや達成感、満足感を得て、自信に繋がれるようにしている。</p> <p>保護者には、行事の取り組み過程を通して、子どもの成長した姿を大切に伝えていく</p> <p>年度当初に年間行事予定表を配布して、家庭の予定に組み入れてもらうように依頼している。子どもが意欲的に行事に参加できるように、取組状況や子どもの活動の様子を、クラスだよりや壁新聞、送迎時に口頭で伝え、保護者の理解や協力を得られるようにしている。クラスだよりは、昨年度から毎月発行し、カラー印刷の月もあり、子どもの活動の様子をより伝わりやすいよう配慮し、保護者の好評を得て保育の理解に繋がっている。保護者には、結果だけでなく取り組む中で、互いの意見の相違に向けた解決の工夫など子どもの成長の姿を大切に伝えていく。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもが、安心して過せるように各クラスの年間指導計画で配慮している</p> <p>各クラスで年間指導計画のなかで、保育時間の長い子どもへの配慮を行っている。合同保育時間の子ども様は、リーダー会議で話し合い配慮事項など共有して記録し職員間で周知を図っている。延長保育は、2歳児室でゆったりと過ごせるスペースを設け、子どもの心身の疲れや気持ちの変化を把握し家庭的で静かに過ごせるように配慮し対応している。日中の子ども様は、3～5歳児クラスは玄関ホールに掲示し、1・2歳児クラスは連絡帳で伝え、担任から運番職員に必要な事項を伝達し、また送迎時に担任が口頭で伝えて伝達漏れのないようにしている。</p> <p>保育形態の変化がある中でも、子どもが楽しく過ごせるように工夫している</p> <p>1・2歳児クラスについては、延長保育時間前までクラス保育を保障し配慮している。保育形態が変化する中でも、子どもが好きな遊びで楽しく過ごせるように日中の保育と違うもので遊べるようにしている。延長保育時間には様々な子どもと一緒に過ごし、子どもの年齢や興味・関心の様子を見ながら、玩具の入れ替えをしている。また、延長保育専用の玩具を準備して、それを子どもが楽しみにできるように工夫している。5歳児は、1月より午睡が無くなり夕方の体調変化に気を配り、保護者に日中の様子含め特例保育中の子ども様も伝えるようにしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作り配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○非該当
評価項目6の講評			
<p>子どもたちが安心して食事をゆったりと楽しく食べられるように工夫し配慮している</p> <p>年齢別食育計画に基づいて、子どもの発達に合わせて各クラス年間食育計画を作成し「楽しく食べる子ども」に取り組んでいる。1・2歳児の保育室には自分の座る場所が分かるように子どもの個人シールを貼って表示し、自分の席が分かるようにしている。一人一人の子どもの成長に合わせて椅子の高さを調整し、担当保育士や関わりの多い職員が食事介助に付くようにしている。食事の席は、子ども同士の関わりを見て楽しく食事ができるように配慮している。食事中の姿勢保持の難しい子どもには、楽しみながら体幹を鍛える遊びを取り入れ働きかけている。</p> <p>子どもの体調や文化の違いなど生活管理指導表を基に状況に応じて食事を提供している</p> <p>子どもの体調や文化の違いなどは、入園前に把握して生活管理指導表を基に必要な対応を確認し除去食や対応食を提供している。献立表は、保護者、栄養士(調理師)、園長、担任で打ち合わせを持ち、翌月分の献立内容の事前チェックを行い、個別対応献立及び確認簿で確認している。また、前日の昼礼でも除去食内容を確認し誤食防止に努めている。行事食は、全園児が喫食可能な献立のメニューに変更して、安心してみんなで楽しい食事時間になるように配慮している。年間を通してアレルギー誤食対応訓練を実施し全職員が対応できるようにしている。</p> <p>地域の業者とも連携して食育活動に取り組み子どもたちの食への関心を育てている</p> <p>各クラス前のプランターで栽培活動をして、水やりや草取りをして野菜の生長や不思議さや喜びを感じ収穫を楽しみにして育てている。収穫した野菜は、調理室に届け調理してもらっている。栄養士が、収穫したイチゴをライブクッキングでイチゴジャムになる過程を見せたり、節分では鰻を焼いて見せたりして、匂い・音など五感に働きかける取り組みをしている。3～5歳児は地域の業者による魚(ブリ)の解体ショーに参加して、命を頂いていることを知り命の大切さを学び、そら豆やとうもろこしの皮むきなどクッキング活動をして食の関心を深めている。</p>			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
<p>子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、怪我の予防ができるように働きかけている</p> <p>保健計画を作成して、子どもが自分の体を知り大切にすることができるように健康教育を行っている。他園の看護師に依頼して3歳児の手洗い、4・5歳児のプライベートゾーンの話、目の話、鼻のかみ方を含む風邪予防や健康管理、命の大切さについて話してもらい、子どもたちは興味を持って聞いている。また手洗いの写真を手洗い場に掲示し、避難訓練で「おかしもち」「いかのおすし」で確認し合い、健康や安全について子ども自身で気づけるようにしている。1歳児クラスから年齢や発達に合わせてリズム運動遊びを楽しみ、怪我の予防に取り組んでいる。</p> <p>医療的ケア児の受け入れの際は、子どもの状況に応じた環境づくりを配慮する</p> <p>現在、医療的ケア児が必要な子どもは在籍していないが、実践園の事例や情報を得て職員会議で情報共有をして学びを深めている。入園の際は、子どもの状況に応じてクラスの環境や保育を柔軟に対応し、専門機関と連携のうえ受け入れ態勢を整えている。今年度から園でアナフィラキシー緊急補助治療に使用する緊急用キットを預かることになり、施設できる薬品庫を設置して安全に保管し、薬の使い方を看護師より講習を受け全職員が対応できるようにしている。各クラスに、アレルギー、熱性けいれんのマニュアルを設置して対応できるようにしている。</p> <p>保護者にSIDSの予防や感染症など情報をタイムリーに知らせ予防や防止に努めている</p> <p>連絡帳や健康チェックカードを利用して子どもの健康状態を把握し、保護者と連携して健康維持に取り組んでいる。乳幼児突然死症候群(SIDS)については、保護者会で知らせ、家庭での仰向け寝の習慣化に向け働きかけている。1・2歳児は10分、3～5歳児は30分毎に顔色や呼吸、体位など確認し、仰向けの姿勢に直して午睡チェック表に記録者を明記して子どもの安全を図っている。感染症発生を受けて保護者にICTを活用してタイムリーに知らせ、欠席児や途中降園児にも情報を伝えて注意喚起を促し、感染症の予防や防止に努めている。</p>			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
<p>保護者の個々の事情に配慮して、安心して子育てや就労ができるように支援している</p> <p>保育時間は、個々の保護者の生活状況や就労状況など面談で聞き取りをして決めている。同時に保護者の体調や家庭状況に配慮して、必要な場合は保育の利用を進めるなど柔軟に対応して、安心して子育てや就労ができるように配慮している。日々の送迎時などのコミュニケーションを大切にして、保護者の悩みの相談に乗り必要に応じて区の巡回相談、子ども家庭支援センター、就学相談など専門機関に相談できることを知らせ援助している。子どもや保護者の様子に気を配り気になることについては、報告して職員間で共有し全職員で支援に努めている。</p> <p>子どもの様子を丁寧に伝え、家庭と園で共に子どもの成長を喜び、信頼関係を深めている</p> <p>年度当初の職員会議で「困った保護者ではなく、困ったことがある保護者なので困りごとを理解して対応する」を職員で確認し、保護者に寄り添い保護者支援に努めている。日頃から子どもの様子を丁寧に伝え、子どもの良い所を伸ばしていけるように、家庭と園で共通理解し共に子どもの成長を喜び合い子育てができるように保護者との信頼関係を深めている。今回のアンケート結果でも「子どもだけでなく保護者に寄り添ってくれて心の支えになっている」「子どもと一緒に育てているという心強い最大の味方」など保護者の信頼や感謝の声が多く寄せられている。</p> <p>保護者参観・参加や行事を通して保護者が安心して子育てできるように支援をしている</p> <p>運動会やおたのしみ会、保護者懇談会、保育参観・参加の行事に保護者参加を呼びかけている。年度当初の保護者会では、クラスの目標やクラスの子ども姿、クラスで大切にしたいことなど資料を配布し、パワーポイントを活用して伝えている。そして、子どもの名前の由来を話してもらい、終了後も子どもを通して保護者同士の交流ができるようにしている。保育参観後には個人面談を行い、クラスの子とも同士の関わりや保育士と子どものやり取りを見てもらい、家庭での子育てに活かしてもらい、保護者が安心して子育てができるよう支援をしている。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
<p>地域資源を活用して、子どもたちに多様な体験の機会をつくり社会性を育んでいる</p> <p>地域資源を積極的に活用して、子どもたちが多様な体験をできるようにしている。近くの土手に散歩に出かけ、広々とした自然の中で思い切り体を動かし、虫を見つけて自然に触れ、風や日差し心地よさを五感で四季を感じる体験をしている。5歳児は、定期的に図書館に行き職員のかたに挨拶をし、お話し会の参加や本を借りて公共のルールを学び、近隣の保育園や小学生と交流をしている。散歩や避難訓練で出会った地域のかたと挨拶を交わし、起震車体験・煙体験、警察官による交通ルールを覚えてもらうなど、多様な経験を通して社会性を育んでいる。</p> <p>子どもが職員以外の人との交流できるように、様々な工夫をして取り組んでいる</p> <p>園では、地域にむけた子育て支援を実施して、地域の多くの保護者に参加してもらい、子どもたちは挨拶や言葉使いを知る機会になり大切な経験になっている。毎年七夕には、近隣の寺院に5歳児は笹を貰いに行き、庭の案内をしてもらい、楽器演奏を聞く機会を得るなど交流をしている。また、地域の鮎の業者に魚の解体ショーを見せてもらっている。都の子育て支援研修、大学生の実習生、中学生の職場体験で来た学生と、一緒に遊び触れ合い楽しむ経験をしている。子どもたちが、保育園の職員以外の人々と関わりを持ち交流できる機会をつくっている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	マニュアルを活用して、子ども一人一人の発達に合わせた援助を全職員で取り組んでいる	
内容①	みどり保育園運営マニュアルを作成し、職員一人一人が冊子を身近に置いて活用し、全職員が共通認識をもち日々の保育を行っている。子どもの発達に応じた基本的な生活習慣の確立に向けて、年齢別食事の流れ、食具・箸について、着脱の仕方など、各クラス共通で子どもに寄り添い援助をしてやり遂げた気持ちを持てるようにしている。また、子どもの育ちを支える言葉かけを確認することができ、次の活動意欲に繋がる言葉かけなど具体例を示して新人職員もすぐ実践できるように作られている。全職員で認識や手順を共有し保育の質の向上に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	各プロジェクトを機能させ、質の向上と組織力を高めている	
内容②	園には5つのプロジェクトチームがあり、組織の質の向上に資するものとなっている。各プロジェクトが目的・目標を持って取り組んでおり、全職員が参加している。防災、危機管理、地域支援、絵本、園内研修の各プロジェクトチームが組織化され、よりこまかな課題について職員自身が考え、意見を出し合い、保育に反映できるように取り組んでいる。プロジェクトを機能させるためには、職員間での共通理解が重要であり、職員間での対話を深めるために、話し合いの場や園内研修の充実に取り組む、質の向上と組織力を高めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	園内プロジェクトで「子ども主体の保育環境づくり」に取り組み、保育の視点や人権を学び、保育の質の向上と豊かな保育実践に繋げている
	内容	園内研修で、子ども一人一人を尊重し、主体性を大切に保育環境づくりに取り組んでいる。研修では、公開保育を行って、自分の保育の振り返りや、子どもの人権、保育の視点など学び共有し保育の質の向上と豊かな保育の実践に繋げている。人権の研修では「子どもへの関わり方を見て良いと感じたこと」や「いやな関わりを見たこと」など例を意見交換して、人権の大切さを職員間で共通認識を図っている。そして「楽しく遊んで体幹を鍛えよう」をテーマに、リズムジャンプに力を入れ子どもと職員が共に楽しみながら豊かな保育実践に繋げ取り組んでいる。
2	タイトル	地域で生まれている伝統文化に触れる機会をつくり、地域資源を活かして様々な活動の体験を積み重ね子どもたちの成長の場を広げている
	内容	園では地域との繋がりを大切にして地域資源を活用し、地域の伝統的な文化に触れる機会を積極的に作っている。近隣の寺院からは七夕の笹を快く分けもらい、寺院の敷地内の広場で活用して遊び、和尚さんの講和を聞いたり、楽器演奏会に参加させてもらったりしている。寺院では、日々の日常生活で味わえない体験をしながら地域との繋がりを深めている。また地域の伝統的な凧「六郷とんび凧の会」からの誘いを受けて、土手で凧揚げを楽しんでいる。園では、子どもたちに地域の伝統文化に触れる機会をつくり豊かな感性の育ちと成長の場を広げている。
3	タイトル	東京都の「すくわくプログラム」に取り組み、リズムに合わせてジャンプを楽しみながら遊び体づくりをしている
	内容	都の「すくわくプログラム」に取り組み、今年度はリズムジャンプに力を入れて「楽しく遊んで体幹を鍛えよう」をテーマに、公開保育を行って3～5歳児クラスで楽しんで取り組んでいる。年齢に合ったリズムジャンプを工夫しながらラインの線に沿って移動し、子どもたちは音楽のリズムに乗り、ワクワクしながらジャンプする楽しさを味わっている。異年齢で行うことも多く、更に刺激を受けて意欲的に楽しみ取り組んでいる。子どもがリズムジャンプの体験を通してリズムに興味や関心を寄せ、達成感や自己肯定感を得て豊かな心の育ちを育てている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園庭を活用して発達に合せた戸外遊びを楽しむと共に、子どもたちが散歩活動を通して地域を知り生活の幅を広げる取り組みに期待する
	内容	当園は、園庭に出ですぐに好きな遊びを見つけて楽しむことができる環境になっている。1歳児専用の庭もあり子どもが安心して遊ぶことができ、地域子育て支援の利用者にも好評である。園庭には、「みどりの庭」を作って子どもたちが自由に土や虫、草花に触れ、友だちとごっこ遊びの世界を発展させて楽しんでいる。園庭の環境を充実させ、子どもたちの遊びの環境づくりを配慮し行っている。散歩について一部の保護者からは回数を増やしてほしいという声があり、子どもたちの散歩活動を通して地域を知り生活の幅を広げる取り組みに期待したい。
2	タイトル	ヒヤリハットからリスクの優先順位の検討をより一層進め、リスクを適正、円滑に管理するより一層の取組に期待したい
	内容	園はあらゆるリスクに対してマニュアルを整備し、対策を講じている。リスクマネジメントの意図としてヒヤリハットからリスクの優先順位の検討をより一層進め、対策を講じていき、対策の効果を検証した上で見直しを図ること、マニュアルや訓練、手引書、手順書などを作成したとしても、その効果の検証と見直しを進めることがリスクアセスメントとして求められる。リスクの特定には保育士の危険予知能力や危機意識の確認が大切になってくる。全職員でリスクマネジメントの意図を共有しつつ、気づきを優先順位の検討に活かすマネジメントに期待したい。
3	タイトル	事業所の重要課題に対する組織的な活動については、現状の課題と目指す目標の達成度合いを測る指標を明示することを期待したい
	内容	園の理念、方針の実現に向け、長期的な課題や目標を実現するために中期的な視点も持つ「みどり保育園3年計画」を策定し、園運営に取り組んでいる。年度単位の事業計画には園の概要等を示したものとなっているが、中期計画と単年度計画を結び付けるより具体的な内容や重点目標の設定などの表記の工夫には検討の余地がある。今後はさらに中期的な展望に基づくそれを実現するための年度ごとに取り組むことなどの明確化を図り、PDCAサイクルの有効性を高めるために期限や指標のある定量化した計画を策定していくことに期待したい。